

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol. 42 季刊
2016年冬号

冬こそ、出会いのチャンス！

小さな隙間職人 コケの世界へようこそ！

拡大してみるとすごい！

「なんだ、コケか…」と一口で片付けないで！
その形は十こけ十色。拡大した姿はとても個性的。



枝に葉っぱ？針葉樹かな…



ウニ？見た目はチクチク



つややかな多肉植物！

形から見るコケの仲間



カブトムシの角？二又だ！



毛？ちょっと伸びた坊主頭

なんと216種 なぜ高尾山にはそんなにコケが多いのか？

- 砂岩や粘板岩などが露出した天然岩の上、倒木や切り株、薬王院の銅ぶぎ屋根の軒下などなど…高尾山にはシダ植物や種子植物が生えにくい場所が意外とあり、こういった森の隙間にコケは暮らしています。特に6号路のような水源が豊かな常緑の森は常に高い湿度が保たれ、適度に差し込む木漏れ日が好条件となりコケは空中や葉の上まで進出。街では見られないような様々な形のコケが見られます。



高尾ビジターセンターから メールマガジン配信中！！

高尾ビジターセンターでは、開催予定のイベント情報(自然教室・自然講座)をメールマガジンにて配信しています。
簡単にご登録いただけますので、みなさん是非ご活用下さい！！

【登録・退会方法】

メールマガジン配信サイト「まぐまぐ」からご自身で、登録・退会できます。
※ 「まぐまぐ」という配信サイトを利用しています。アドレスを登録すると「まぐまぐニュース」なども配信されるようになります。それらが不要な場合は、お手数ですが、配信を停止してください。

【個人情報について】

登録された個人情報は、「まぐまぐ」の個人情報取り扱い規定によって管理され、当ビジターセンターには、いっさいの情報は登録されません。

高尾ビジターセンター メールマガジン

検索



冬の高尾山、 登山道の凍結にご注意！！

2014年2月の大雪は印象に残っている方も多いと思いますが、実は高尾山では毎年20～40cm程度の雪が積もります。注意が必要なのは降った直後よりも、3日～1週間後。降りたては雪が柔らかく滑ることはありませんが、一度溶けた雪が氷になった場所が要注意。アイゼンがないと登れない道も出てきます。

雪が降った後はビジターセンターのホームページ等で状況をご確認ください。

解説員 しらむ vol.4

六根(ろっこん)

先日、薬王院のお坊様の説法を聞く機会がありました。その中で特に印象的だったのが、「六根清浄」という言葉でした。「六根」とは人間の6つの感覚器官である目、耳、鼻、舌、身、意(心)を表しています。これらをきれいにするために、今も年に一回、高尾山から富士山の山頂まで歩き通す修行があるそうです。
じつは、高尾ビジターセンタースタッフもこの「六根」を駆使して、日々の登山道を歩いているんです。
出勤途中に女坂でフワッとスパイシーな香りが漂ったかと思うと、「落ちてるね」を合言葉に、足元のガラスサンショウの実を一齐に拾い始めたり(展示につかっています)、ビジターセンターを閉めて下山している途中、真っ暗な森の中から「ガザツ」という音が聞こえたら、すかさず同じ方向を向き、「今のムササビだね。」と確認し合ったり。

こんなふうに、六根を意識して歩くことで、日々見ている風景の中にもきっと新しい発見があるはずですよ。

楽しい発見をした際は、ぜひビジターセンターに立ち寄って、スタッフに教えてください。 <佐藤舞子>

たかおさん

「風林火山解説員」の巻



「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

コケの宝庫、6号路へいざ出発!

コケにとって好条件の6号路ではルーペを覗くたびに新しい形のコケに出会えます。コケ初心者でも簡単に楽しめる解説員お勧めコケポイントをご紹介します。山頂の高尾ビジターセンターからスタート!

START

山頂石垣
冬の乾燥で休眠状態のコケ。過酷な乾燥地でも、朝露だけで休眠から復活し光合成ができる。
数秒後に復活!

乾燥した岩
せん類は乾燥地では密集し、よりモコモコ状態。その隙間に水を蓄えるから、周囲が乾燥していても元気に生きられる。
融るとしっとり

葉の上
さわさわ
飛石
大山橋
カビゴケはアオキヤシダの上が好きなコケ界の異端児。
揉ると独特の香り

岩
露出した天然の岩は、まさにコケ天国! 一歩も動かなくても、数種類のコケが見比べられる。

ロープの上
コケは体全体で吸水できる。他の植物が生えないこんな場所でも十分な湿気と光があればOK。

空中
枝に垂れ下がるキョスミイトゴケがあると、ということは湿度が高く、きれいな空気の見証。

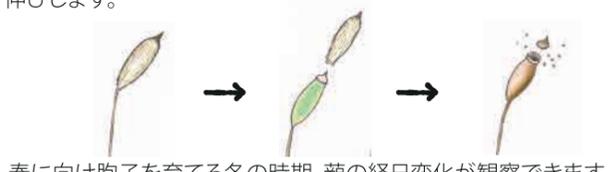
石垣
6号路登山口付近の光が差し込む石垣は、絶好の撮影スポット。コケがキラキラ輝きとてもきれい。
なでなで

GOAL
清滝駅

冬がお得!コケ観察



ぴょっと伸びる物体は、胞子が詰まった袋(蒴)。胞子を乾いた春風に乗せて遠くに飛ばし子孫を増やすため、ちょっとでも高く背伸びします。



春に向け胞子を育てる冬の時期、蒴の経日変化を観察できます。



観察グッズは忘れずに!



コケは地味で目立たない存在だけど、この高尾山で自分に適した環境を選んで、したたかに生き抜いています。足元の小さな隙間職人たちを探してみてください。

人と歴史がつなぐ道

小仏峠物語

戦国の世、甲斐の武田信玄が相模の北条氏康を攻めた時、常識外れな峠越えをして北条の意表を突いた武田の将、小山田信茂。彼の行動が小仏峠にもたらしたものは?

高尾山の北西に位置する小仏峠、ここを頂点に高尾駅と相模湖駅を東西に結ぶ峠越えの道があります。麓と峠の高低差は約350mあり、峠の前後は登山道で、急坂や足場の悪い所もあって、歩くのには一苦労です。

この峠越えの道、かつて戦国時代の頃は急峻な道細い難所でした。峠を境に東に北条、西に武田の領地でしたが、難所にゆえに軍勢は攻め込んで来ないと考えられていました。そんな当時の常識を覆す、大胆不敵な峠越えをしたのが武田の武将、小山田信茂です。

1569年(永禄12年)武田勢約2万が碓氷峠を経て北条の小田原城を攻める途上、拜島方面から滝山城を攻めました。その別動隊として、小山田は騎馬兵と歩兵約1千を率いて出兵しました。対する北条は防衛のため、周辺の城々の警戒を強めましたが、小仏峠からの侵入には無防備でした。領地を守る側が見落とすほどですから、よほど険しい場所だったのでしょう。

そこに目を付けた小山田は兵とともにこの難所に臨みます。刀・槍・甲冑などの武器を携え、軍馬を引き連れた行軍の危険さと労力は計り知れませんが、ついに

1569年(永禄12年)
武田 vs 北条
行軍経路と合戦位置図

碓氷峠、甲府、多摩川、武田信玄2万、高月町、八王子市、滝山城、北条勢2千、甘里、高尾駅170m、小山田信茂1千、小仏峠548m、北条領、武田領、郡内、相模湖駅200m、解説員 藤野

※八王子城はこの合戦後に築城されました。

小山田は峠を越え、敵地への進入を果たします。さらに小山田は兵を進め、甘里の合戦で滝山城から出撃した北条勢約2千を打ち破ります。これらが功を奏し、武田本隊は滝山城を落城寸前まで追い込むに至ります。

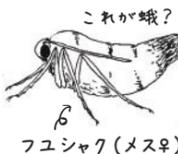
この戦いで大きな損害を出した北条はその後、小仏峠からの敵の侵入を防ぐため、八王子城と小仏峠に關所を築きます。峠が交通の要所だと認められたのは、この時だったのかも知れません。

高尾山の

ふしぎ

vol.4

翅のない蛾? フユシヤクのふしぎ
冬の夜にうごめくこの虫...実は、フユシヤクという蛾のメス!



「なんだこの生きもの...!」私がフユシヤクのメスを初めて見た時に出た一言がまさにコレであります。蛾や蝶の仲間にとって、翅はシンボルのようなもの。その翅がないなんて実に奇妙...! そう感じた私は、その理由を探ってみました!

調べていく中で、ポイントとなると感じたのは、彼らが活動時期に冬を選んだという点。冬はクモやカマキリなどの天敵が少なく、捕食される危険性が少ない季節と言えます。しかしその反面、寒さが体力を奪う過酷な季節でもあるのです。そこで身につけたとされるのが、オス呼び寄せるためにフェロモンを出すコーリングという能力! オスに見つけてもらえば、自ら飛び回って体力を消耗することなく済みますね! フユシヤクのメスたちには最終的に産卵という大仕事がかかっています。そのためにもメスが体力を温存することはとても重要なことなのでしょう。

フユシヤクのメスに翅がないのは、子孫を残すための知恵だったのです。冬の夜にうごめく省エネガールのフユシヤクちゃん! 以後お見知り置きを!

〈解説員 梅田〉